

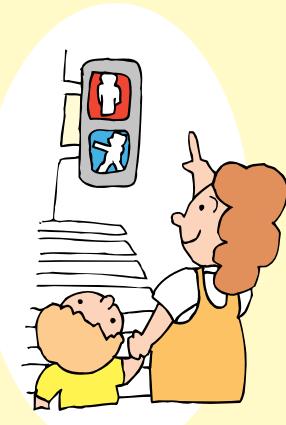
「お腹がすいたね。はい、どうぞ」「だっこしようね。気持ちいいよ」というあたたかい言葉かけとまなざしは赤ちゃんに十分伝わります。そうすると、「**自分をあたたかく見守ってくれる人がいる**」と感じていくようになり、それがこれから成長していく上での「**基本的信頼感**」の基盤となっていくのです。安心感いっぱい、スキンシップいっぱいの中で、あたたかい親子関係を作りあげましょう。



2 幼児期
2~3歳

たましい 三つ子の魂 百までも

ハイハイ、つかまり立ちと成長してきた子どもは、どんどん手足を自由に動かせるようになります。記憶力や言語力も日に日についてきます。そうすると、何でも自分でやりたがるようになって「魔の二歳児」などと言われるようになります。しかし子どもが何でも自分でしたいと言い出すことはごく自然なことであり、反抗しているのではなく自主性が出てきたのだ理解してください。“**自分で考える・思い浮かべる**”そして“**試してみる**”“**最後までやり抜く**”という力をじっくりつけていくのもこの頃からです。それは遊びの中から始まり、周囲にある何気ないものがすべて材料となっていきます。



また大人の行動をすべてお手本にすることを意識してください。それと同時に、ものごとの善悪もきちんとしつけていきましょう。節目にはしっかりと“**ダメなものはダメ**”“**よそはよそ、うちはうち**”という信念をもって接することです。「**三つ子の魂百までも**」と昔から言われるとおりです。



3 就学前
4~5歳

社会のルール、家庭のルールを身につけさせましょう

この頃になると、さまざまな能力が完成され、積極的に物事と関わり、集団と一緒に喜びを得るようになります。そして、どうしても言葉や知識が先行してしまいがちなこの頃にこそ“**五感**”を使って、さまざまな体験や経験をさせてあげてほしいと思うのです。ヌルヌルやベタベタは、実際に経験してみるとわからない言葉です。悔しい、寂しいという感情は、子どもどうしが交わらないとわからない感情です。ですから、この時期からどんどん五感を使っての活動と、子どもどうし関わりの機会を作ってあげてください。基本的な生活習慣を身につけるとともに、社会のルール・家庭のルールといった社会性も身につけさせていきましょう。**子どもたちは実際に体験しなければわからないことばかりなのです。**



4 儿童期
6~12歳

努力したことを認めてあげて

学校では、同年齢の集団での活動がほとんどです。その中で友だちに共感し、我慢や分け合い、交代などができるようになります。そこに基礎学力の習得という分野が加わってきます。道徳的な行いと勤勉性が求められるようになります。まさしく「**知・徳・体のバランス**」が大切になってきます。この頃は結果を第一に考えずに、**頑張っているその過程こそ重大**であり、どれだけ最後まであきらめずに努力したかということを認めてあげましょう。



5 青年期
13~18歳

人生の先輩としてあたたかい目で

あたたかい家庭という懐から、いよいよ社会という世界に出て行かなければならぬと模索し始めるこのころの精神状態は、とてもデリケートなものになっています。この葛藤時期にこそ、家庭が安らぎの場所とななければなりません。



「あなたはあなたらしく」というメッセージを伝え、子ども自身が**“自分が好き、自分は生きている価値がある”**と思う自尊心を育てなければなりません。そして、子どもを一個人として信じ、見守るとともに、自立に向けて、また将来に向けて、今度は人生の先輩として話し合えるような親子でありたいのです。

このように、成長・発達に応じた特性をきちんと把握し、子どもの心に寄りそいことで、新しい子どもの姿が見えてくるかもしれません。「どうしてこの子はこうなのだろう」という事がらも「だからこうなのだ」と理解できるでしょうし、「楽しく子育てする」ことにもつながるでしょう。それこそが**「受容と共感」**です。発達段階ごとにしっかりその子どもの気持ちを受け止め、共に感じ、正しく導いてあげることです。

そして、自分のことをわかってくれて“愛されている”と感じ、安心感をしっかりとつることができれば、周りの人と関わり、「信頼関係」を作り上げていけるようになります。